別紙

報告事項　苫小牧市漁港区リブランディング事業について（令和７年度報告）

苫小牧市公設地方卸売市場の施設再整備は、令和７年度の審議会の協議結果や、まちづくりが目指すウォーターフロントの魅力向上の方向性に基づき、漁港区エリア全体の在り方を一体的に検討する方針とし、「苫小牧市漁港区リブランディング事業」として推進してまいります。

この苫小牧市漁港区リブランディング事業の令和７年度までの進捗状況について、下記・別紙のとおり報告します。

記

１　令和７年度報告について

令和７年度に市場施設再整備検討部会において、協議・検討した内容について、資料１にまとめています。同封していますので、ご確認願います。

２　今後の取組について

令和８年度は、事業者等との検討の中で、再整備の考え方の骨格づくりとして、基本的な考え方を定めていく基本構想の策定に向けて着手します。

令和９年度以降は基本構想をまとめあげ、その内容を踏まえてより具体化させ、整備内容を確定させていくことで、基本計画としての要件を整理していきたいと考えています。

以降は、基本計画を踏まえた、整備手法などの方向性を整理し、整備手法に応じた設計や施工の発注を行うための手続きに進んでいくものと想定しています。

なお、資料１の４ページにも図でお示ししていますので、ご参照ください。

３　参考：令和８年度の経過概略

〇市場施設再整備検討部会合同会議

令和８年４月２３日に、水産物部、青果部両分科会を合わせて開催し、昨年度（令和７年度）の業務内容について報告・協議を行いました。

委員からは「機能過多による事業費増や利用者負担の在り方、経営を考慮した適切な規模感やコスト削減策の視点も基本構想に反映してほしい」などの意見が出ました。市からは技術的な実現可能性と費用感のバランスを精査する方針を示しました。

また、一体整備が検討されていた「ぷらっとみなと市場」について、市は現状のス

キーム（同一場所での一般会計による建替）が困難である理由を説明しつつ、漁港区の賑わい・観光機能を維持するための新たな手法を今後検討していくことを確認しました。

○第 19 回市議会定例会常任委員会・文教経済委員会

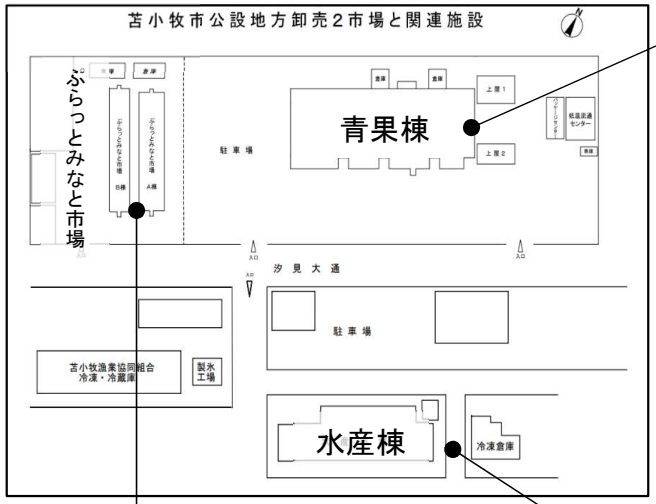
令和８年６月１７日に、「苫小牧市漁港区リブランディング事業（令和７年度報告）について」を報告しました。

委員からは、財政制約下での施設整備、冬期間の屋外滞在と平日の集客対策、交付金などの多様な財源活用、青果棟の取扱量減少への対応、民間専門知識の活用などが指摘されました。市からは、基本計画策定時に事業規模や具体的な整備手順を検討し、国の交付金活用や専門事業者の委託を通じて実現可能な計画策定を目指すと回答しました。

苫小牧市漁港区リブランディング事業について（令和７年度報告）

資料１

1 現状



青果棟＜公設地方卸売市場＞

・昭和46(1971)年竣工 **55年経過**

・取扱量、取扱高ともに減少傾向
令和６年度取扱量：6,919ｔ
取扱高：2,696百万円



ぷらっとみなと市場

・Ａ棟　昭和46(1971)年竣工
・Ｂ棟　昭和48(1973)年竣工
50年以上経過
・旧耐震基準
・令和６年度来館者数：139万人
・物販、飲食店 23店舗



水産棟＜公設地方卸売市場＞

・昭和41(1966)年竣工 **60年経過**

・取扱量は減 取扱高は増傾向
令和６年度取扱量：10,582ｔ
取扱高：9,856百万円



☞対象施設は大きく3つに分類されます。
公設地方卸売市場の青果棟、水産棟、
ぷらっとみなと市場で、
エリア内にはそれらに関連する
複数の施設があります。

☞いずれの施設も50年以上が経過
しており、大規模な改修や更新など、
施設整備の方向性を検討する必要が
あります。

2 課題・問題点

⑴老朽化対策（３施設共通）

・建物、設備の老朽化
・大規模な改修、更新



⑵衛生管理（水産棟,青果棟）

・全面的な屋内化
・HACCP（ハサップ）（衛生管理手法）



⑶温度管理（水産棟,青果棟）

・開放型施設 → 定温管理
・商品鮮度、品質維持



⑷物流・動線整理（３施設共通）

・搬入積込の作業効率化
・搬出入時の屋根整備
・物流、人の動線の最適化





☞令和7年度に実施した検討部会にて議論された内容から、施設が抱える問題や運営上の課題の主なものをまとめています。

☞水産棟及び青果棟は開放型施設のため、鳥などの侵入が容易であり、一定の温度で管理することが難しい構造です。

☞衛生管理手法HACCP（ハサップ）の考え方を取り入れるなど、商品鮮度や、品質を維持するための衛生水準の向上や温度管理が求められています。

☞トラックドライバーなどの問題を背景に、搬入積込の作業効率化が求められます。天候に左右されないような搬出入時の屋根整備や、車両と人の作業動線を最適化する必要があります。

3 漁港区リブランディング事業

事業概念

苫小牧ウォーターフロントの“漁港区”において、農産物、水産物の集積地である卸売市場の機能を、時代の変化や市内外のニーズに合わせて強化・向上することによって、その産業資源を生かした魅力を再構築し、苫小牧の農水産業の価値を向上させるもの。

事業目的	公設地方卸売市場、ぷらっとみなと市場の老朽化対策をはじめとした再整備による機能強化・向上 ▶ 市民への安全・安心な生鮮食料品等の安定供給 ▶ 本市の農水産資源・食の魅力向上
事業の進め方	▶ 再整備の基本構想を策定し、実現可能な再整備基本計画を策定する。 ▶ 関連計画を含めたこれまでの検討をベースに、各施設の状況に合わせて段階的な再整備を行うことも視野に入れた検討を進める。 ▶ 取り巻く環境、取扱数量の変化、事業者の使用料負担・経営計画を踏まえて検討する。

関連計画



苫小牧市未来まちづくり戦略



苫小牧駅周辺ビジョン

☞公設地方卸売市場の施設再整備は、漁港区エリア全体の在り方を一体的に検討する方針とし、「漁港区リブランディング事業」としました。
その事業目的や事業の進め方について整理しています。

☞「リブランディング」
直訳すると一度確立されたブランドを再構築・再定義すること。

4 今後の方向性・スケジュール

令和8年度　　令和9年度

基本構想

考え方の骨格づくり
再整備の基本的な考え方を定める。

基本計画

再整備基本計画の策定

令和10年度　・・・

設計・施工

整備手法の決定、基本設計、実施設計、
施工（建物、設備、外構）、解体

☞令和8年度は再整備の考え方の骨格づくりとして、基本的な考え方を定める「基本構想」の策定に着手します。

☞令和9年度以降は基本構想をまとめあげ、その内容を具体化させ、整備内容を確定させていくことで、「基本計画」としての要件を整理していきます。